

今日は大分八幡宮!

筑豊の  
素敵な神様  
紹介します



大分八幡宮



神社の歴史 History

大分八幡宮は、筑前国最大最古の八幡宮であり  
宇佐八幡宮の重要な別宮として「五所別宮第一」と位置付けされています。  
宇佐宮の本宮・筥崎宮の元宮、応神天皇出生の地としても  
有名な由緒深い大分八幡宮。  
奈良時代・聖武天皇の神亀3年(726年)御神託によって社殿が創建されました。  
神社の境内には、神功皇后が三韓から持ち帰られた  
三本の御神木の子孫と言われている  
大木(県指定天然記念物)や江戸時代のものである  
総数48点74枚の絵馬が大切に保管されています。  
私達が住むこの町、大分八幡宮には、最も位の高い  
神様が今もなを祀られ続けているのです。



誕生 The beginning

大分宮の創建は神亀3年(726年)と伝えられ、その神体は  
神功皇后が裳腰(腰に付いている飾り)にはさんだ、くしみ玉であったという。  
加えて大分八幡の御祭神のひとりである応神天皇は豊前地方に渡来系の信仰を  
基盤の一つとし成長してきた神様でもあり、本宮・宇佐神宮は養老4年(720年)の  
法令国家による準人に対する軍事行動へ協力し国家との結びつきも強めてきました。  
神亀2年には、小倉山社(宇佐神宮の場所)も造営され渡来系造瓦技術にみる  
豊前地方と穂波地方との交流を行う前提で神亀3年に大宰府と豊前の道を行き来する  
拠点に大分の地、大分宮が造営されました。  
その後、様々な戦争や歴史のなかで何度か焼亡しましたが当時の村民など、  
秋月種実(戦国・豊臣期の筑前国の武将)によって天正5年(1577年)に  
現在の大分八幡宮が再建されました。



宮司さんからひとこと♪



感謝

宮司 井上

神社のあれこれ教えます!

名前の由来は?

大分の地名は新羅出兵から帰った神功皇后が宇美の地で応神天皇を生んだ後  
大口嶺(大口嶺の乳呑坂)を越えこの(旧筑穂町大分)地に立ち寄りました。  
そして、この地でそれまでの戦いに付き従ってきた軍兵達を故郷に帰らした事から、大分(おおわかれ)と呼ぶようになり  
後の大分(だいぶ)と呼ぶようになりました。

※新羅出兵とは  
朝鮮半島の広い地域を従わせる為の戦争のこと。

教えて御祭神

- 応神天皇(おうじんてんのう) = 勝利の神
- 神功皇后(じんぐうこうごう) = 子安・安産の神
- 竈門山神(玉依姫命 たまよりひめのみこと) = 縁結びの神

どこにあるの?

住 所 / 〒820-0712 飯塚市大分1272番地  
T E L / 0948-72-0621

